

水道事業会計の財政公表

市は、皆さんからいただく水道料金などを財源に、安全な水道水を安定的に供給するため、計画的に水道施設の整備事業などを行っています。

この事業を行う水道事業会計は、『収益的収支』と『資本的収支』の2つに分けて予算措置されています。

また、『第30回登別消費生活展』の会場で行った『利き水アンケート』で、どの水が一番おいしいかアンケートをいただきました。

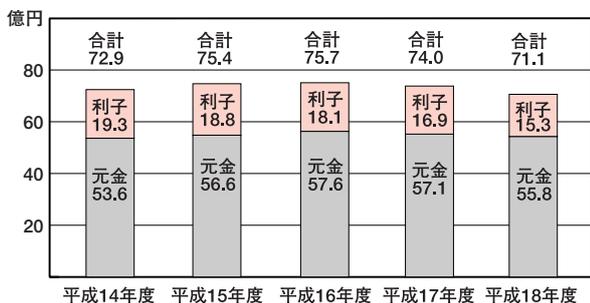
今月号は、平成19年度水道事業会計の予算執行状況とこのアンケート結果などについてお知らせします。

企業債の状況

市は、皆さんに安全な水道水をお届けするため、配水管の整備などを行っています。これには多額の資金を必要とするため、その財源として企業債を発行しました。

平成18年度は、約8,300万円の企業債を発行し、これまで借り入れした企業債の元金約2億1,300万円と利子約1億6,000万円、合計約3億7,300万円を支払いました（グラフ1参照）。

グラフ1 企業債の状況（各年度末残高）

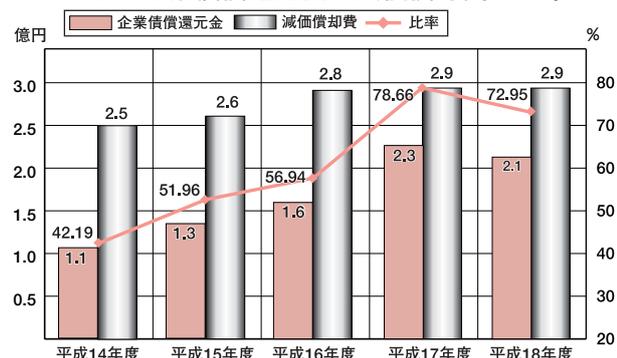


企業債償還元金と減価償却費のバランス

企業債償還元金が減価償却費よりも多くなると、純利益からこの元金を償還しなければなりません。このバランスから財政の安定度を見ることができません（グラフ2参照）。

市では、この比率が増加の傾向にありますが、現在は企業債の発行を抑え、安定した経営を行うように努めています。

グラフ2 企業債償還元金と減価償却費の比率



予算の執行状況（9月30日現在）

収益的収支

収入は、水道料金や受託工事収益などで、収入率は46.4%となっています。支出は、予算の50.3%が年度末に経理を行う減価償却費や支払利息などの経費のため、執行率は27.9%となっています（表1参照）。

資本的収支

収入は、86.6%が国などからの借入金で、そのお金は年度末に交付されるため、現在の収入率は0%となっています。支出は、配水管整備事業や水道メーターの購入、借入金の償還などにより執行率は29.7%となっています（表2参照）。

表1 収益的収入および支出

収 入			
科目	予算額	収入済額	収入率
水道料金	9億588万円	4億2,639万円	47.1%
受託工事収益	3,199万円	942万円	29.4%
その他営業収益	2,770万円	1,220万円	44.0%
営業外収益	28万円	10万円	35.7%
特別利益	0円	0円	0.0%
計	9億6,585万円	4億4,811万円	46.4%

支 出			
科目	予算額	支出済額	執行率
受水費	1億5,834万円	7,511万円	47.4%
人件費	1億2,324万円	5,910万円	48.0%
支払利息	1億5,582万円	7,776万円	49.9%
減価償却費	2億9,710万円	0円	0.0%
資産減耗費	2,150万円	0円	0.0%
維持管理費	1億4,489万円	3,980万円	27.5%
計	9億89万円	2億5,177万円	27.9%

表2 資本的収入および支出

収 入			
科目	予算額	収入済額	収入率
企業債	1億4,730万円	0円	0.0%
工事負担金	2,270万円	0円	0.0%
計	1億7,000万円	0円	0.0%

支 出			
科目	予算額	支出済額	執行率
工事請負費	2億5,626万円	4,440万円	17.3%
企業債償還元金	2億2,176万円	1億978万円	49.5%
人件費	2,807万円	1,299万円	46.3%
量水器購入費	5,072万円	177万円	3.5%
修繕費	645万円	224万円	34.7%
委託料	2,505万円	455万円	18.2%
その他経費	916万円	145万円	15.8%
計	5億9,747万円	1億7,718万円	29.7%